

びるっぱ

Vol. 444 2023. 7

近森就職セミナー 開催

表紙の写真



医療情報

- 胸痛外来 新設
- RRS委員会 新設
〈院内迅速対応システム〉

ウェーブ5周年祭 開催
今月開催! 公開県民講座

詳しくはこちらへ ➡





循環器内科

胸痛外来 新設

7月1日 開設 紹介診察日／水曜日 午後

近森病院 循環器内科 部長
西田 幸司 にしだ こうじ

「胸が痛い」といって

も、その原因や重症度によってさまざまな疾患を考える必要があります。今回新設する胸痛外来では、労作性狭心症の診療に加えて、最近注目されている微小血管狭心症の診断も行います。



労作性狭心症

動脈硬化の進行による血管の閉塞や狭窄が主な原因で、身体に負荷がかかった時に胸痛が出ます。当院では、できる限り非侵襲的な検査を選択し、患者さんの負担を軽減することに力を入れており、2023年4月に導入された最新の心臓冠動脈CTにより、労作性狭心症の診断が一層強化されました。また、県内で唯一使用可能な

FFR-CT(※1)という機器を活用することで、非侵襲的に虚血の評価を行うこともでき、より迅速かつ正確な診断が可能です。

微小血管狭心症 **注目!**

血管の閉塞や狭窄がない場合も多く、拡張不全や攣縮により安静時にも胸痛が出る疾患です。従来、診断が難しく、原因不明とされることが多かったですが、最近では心臓カテーテル検査により詳細な診断が可能になり、それに基づいた治療も行われています。

当院へご紹介ください

近森病院では、地域医療連携センターやWeb予約システム(※2)を通じて、患者さんのスムーズな受診を促進していますが、今回の胸痛外来の開設に伴い、さらにかかりつけ医の先生方との連携を強化する取り組みにも力を入れていきたいと思ひます。

胸痛には深刻な病態も存在するため、早期の診断と適切な治療が重要ですが、診断に迷うケースも多々ありますので、お気軽にご紹介いただければ幸いです。

中四国でも有数の心臓カテーテル治療症例数を誇る近森病院の豊富な経験と治療技術を活かし、患者さん一人ひとりに合わせた診断と、当院の強みである最新の診断・治療機器を活用した高度な医療をこれからも提供していきます。

※1

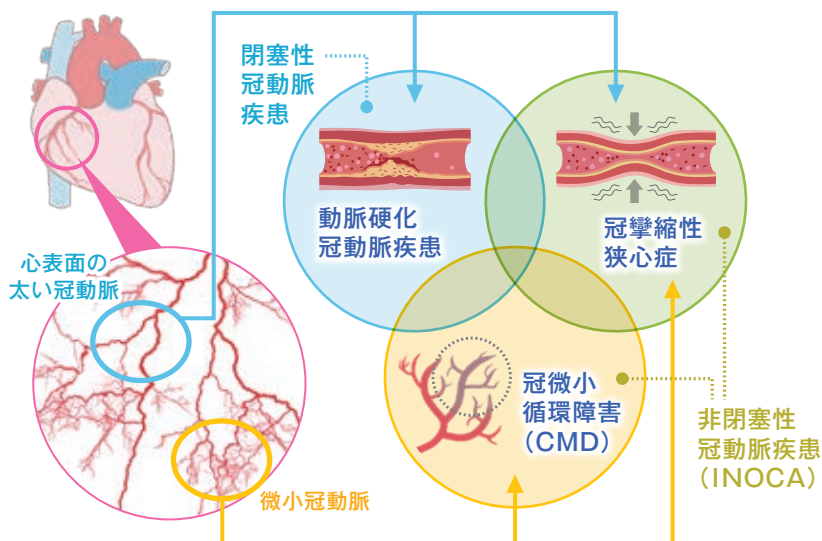
FFR-CTについて
(ひろっぱ 2022年8月号 P.1)

※2

紹介Web予約
(地域の医療機関からのみ)

※参考文献…tohokuuniv-press20210527_01web_angina.pdf

狭心症を起こす3つの原因



第19回 日本医療マネジメント学会 高知県支部 学術集会

地域医療の
ニューノーマル

会長

川井 和哉

社会医療法人近森会 近森病院 院長

日時

2023年

8月27日(日)

会場

高知市文化プラザ
かるぽーとプログラム
(予定)

● 特別講演

「トレーナーから見た東京オリンピック
～いかに準備していかに戦ったか(仮題)」
鴻江スポーツアカデミー 代表 鴻江 寿治氏

● 一般演題発表

● クリティカルパス展示

詳細は、ホームページをご覧ください。
<https://www.chikamori.com/jhm19/>



急変を未然に防げ!

～急変を予測し介入～

RRS委員会 新設

Rapid Response System
〈院内迅速対応システム〉

4月1日 設立



特定行為研修修了看護師／RRTメンバーの一部

RRS委員会立ち上げ

RRS委員会 委員長
近森病院 救命救急センター
救急科 科長

三木 俊史 みき としふみ



入院中に急変に至る患者さんの多くには前兆があることが指摘されています。院内迅速対応システム(Rapid Response System: RRS)は、その前兆を適時に認識して速やかに対応し、予期せぬ院内心停止や院内死亡といった重篤な有害事象を減らそうとする医療安全体制です。

既にRRSの導入が義務化されている国もあり、わが国でも徐々に広がりを見せつつある中、2022年度の診療報酬改定で新設された急性期充実体制加算において、RRSの導入・運営が施設基準の一つとして求められるようになりました。

当院でもRRSの正式な運用に向け、RRT(Rapid Response Team)の起動要件の検討、体制・マニュアルの整備を行ってきましたが、この度RRS委員会を立ち上げ、2023年4月より運用が開始となりました。まず要請件数の増加を目標とし、要請症例の振り返りや運用の課題を議論して、その都度修正を行なっていきたいと思います。

RRT再編

近森病院 ICU病棟 看護師 主任
クリティカルケア認定看護師
特定行為研修修了者

池澤 友朗 いけざわ ともあき



昨年度までのRRTは特定行為研修を修了した看護師で構成されていましたが、そこに集中系リーダー看護師を加えることで24時間対応可能なRRTへと進化を遂げました。

今までは看護師個々のスキルによって対応の個人差が生じていましたが、今後はプロトコルの導入や研修などを経て、急変対応の標準化やスキルアップを行っていきたいと考えています。まだ始めたばかりですが、高知県や四国を代表するRRTとなるべく、システムを周知し、院内全体で取り組みたいと思っています。

RRS - 院内迅速対応システム -

この症状は連絡を!

要請基準



A
気道

気になる音(例:ストライダー)
挿管チューブ、気管切開カニュラの問題



B
呼吸

呼吸困難
努力呼吸
不規則な呼吸・変な呼吸様式
呼吸回数10回/min以下・25回/min以上
SpO₂=92%以下 もしくは 計測不能



C
循環

心拍数40bpm以下、120bpm以上
収縮期圧90mmHg以下、200mmHg以上
尿量が4時間で50ml以下
新たにカテコラミンの投与が開始となった



D
意識

急激な意識状態の悪化
覚醒しない
神経学的所見(麻痺、呂律難など)



E
その他

患者に対し何か心配なとき
急性の明らかな出血(例:吐血、外傷など)
治療に反応がない

RRT 〈Rapid Response Team〉へご連絡ください

24時間
365日
対応

下記①～③を伝えてください。

- ① 部署名・患者名・患者ID
- ② 該当する要請基準(上記A～Eの中から選択)
- ③ その他伝達の必要な事項



▲ 内科病棟でRRTと主治医で身体診察中。



▲ 整形病棟でRRTの判断にて採血実施。



出張

**第39回
FESS Cadaveric Workshop**
〈2023年5月12～15日／タイ国〉

タイ
泰国で技術を磨く

近森病院 整形外科 部長 井ノ口 崇
いのち たかし

ホテルからバンコク市内をのぞむ

献体にて手術技法を学ぶ

5/12～15、脊椎内視鏡手術の技術向上を目的として、バンコクのチュロンコン大学に行き参りました。使用させて頂く献体はThiel法で固定されており、皮膚の質感や組織が柔らかく、筋肉や神経の色も生体とかわらないため、ほぼ実際の手術と同じように内視鏡を行えます。これまで行ってきた技法に加え、新たな腰椎へのアプローチ方法や、頸椎への内視鏡手術の応用といった、最先端の手術手技を学ぶことができました。

技術の高さに改めて自信

日頃私が行っている局所麻酔下腰椎手術の技法についてデモをさせて頂くと、手早さと正確さに全国の参加者がザワついておられました。徳島大学の西良教授の下で学んだ手術手技の素晴らしさと、近森病院で磨いている技術が誇れるものであると改めて感じました。いつもお力添えを頂いているスタッフ、近森会職員の方に改めて御礼を申し上げます。

今回学んだ技術をさっそく臨床応用し、困っている患者さんおひとりおひとりに、心を込めて届けることで、恩を返したいと考えています。

参加したタイの日曜日は選挙であり、法律により土曜日の18時から24時間お酒がご法度でした(ただただ涙...)。また今回知りましたが、タイのことを漢字表記で泰国と書くそうです。優しい漢字で、お気に入りになりました。



▲ 全てに感謝し、献体にて腰椎内視鏡手術の新技術トレーニングする。

タイの法律を遵守し、17時から18時までの懇親会。乾杯のご発声お待ち遠しい!!



資格取得

**脊椎脊髄外科
指導医**



脊椎指導医 はじめました!

近森病院 整形外科 部長
井ノ口 崇
いのち たかし

日本脊椎脊髄病学会指導医の資格を取得しました。この資格は、3階建ての3階部分に位置する資格です。まず日本整形外科学会専門医(1階部分)を取得したのち、一定の研修を経て認定脊椎脊髄病医(2階部分)を取得します。

ここから脊椎手術を300症例以上経験し、さらにそのうち200症例以上は執刀医でなくてはいけません。そして学会評議員3名の推薦をもって初めて付与されるのが、今回取得した日本脊椎脊髄病学会指導医の資格です。

業界的には、あなた指導医ですか、脊椎疾患のことだいたい研鑽したのね、というトリセツになります。この資格を取得したことで、自分のマインドの何かが変わることはないのですが、脊椎外科を志す若者に、より安心して勉強できる環境作りができるかな、と考えています。親しみやすいキャラ作りを目指しているので、いつでもお声がけください。よろしくお願いします!

ありがとう
ございました!

献

血

キャンペーン

6月22日

結果

- 協力者(受付者数) 46名
- うち400ml献血ができた方 ... 40名

次回は
10月頃の予定
です!



論文掲載

論文名

Fulminant lymphocytic myocarditis: Prediction of successful weaning from Impella support for cardiogenic shock

掲載誌

J Cardiol Cases 2022;25:159-162

閲覧はこちらから →

初めての論文投稿で感じた
臨床研究の重要性

近森病院 呼吸器内科 三枝 寛理 さえぐさ ひろよし

自施設の劇症型心筋炎の4例から統計学的な予後因子の解析を行った論文で、臨床現場でのクリニカル・クエッションに則した内容でした。私にとって論文を投稿する初めての機会、臨床で経験した症例を自施設のみに留めるのではなく、その他の医療従事者も利用可能な媒体として論文を投稿することの重要性を肌で感じました。今後も論文投稿を継続していこうと思います。

指導医
コメント学術担当顧問 土居 義典
どい よしのり

劇症型心筋炎では急性期(入院時)に心機能の回復を予測することは一般に困難とされていますが、心機能回復を予測する上では、心室壁の浮腫が軽度で、右室不全がみられないという、心筋の炎症の程度と範囲を示す指標が重要であることが明らかになりました。機械的補助循環離脱可否の予測にも役立つ大切な臨床情報ではないかと考えています。

この論文は、三枝先生が研修医として地方会で発表したものにその後の症例を加えて、新たな視点でまとめたものです。学会発表で満足することなく、初めての論文作成に取り組んで結果を出した三枝先生の意欲と姿勢を高く評価したいと思います。この経験を今後の学術活動に生かしてほしいと思います。

表彰

大学院での学び

近森オルソリハビリテーション病院
外来 看護師 主任

関 恵里 せき えり



私は現在、高知大学大学院看護学専攻2年生に在籍し「外来看護管理」に関する研究で修士論文に取り組んでいます。講義を受けるため日勤が終わると急いで大学に向かい、21時頃まで講義を受け再び急いで帰宅する生活を平日4日間繰り返し、休日や夜間は課題に取り組む日々です。

昨年、修士1年次に、驚くことに成績優秀者に選ばれました。仕事と研究の両立を成し遂げられたのは、家族の多大なる理解と協力、職場や上司の支援、所属も役職も年齢も超えて大学院で学ぶ同院生の仲間達、大学の先生方のおかげです。

働きながら大学院で学ぶことは大変ですが、それ以上に得るものはとても大きいです。様々なご支援に感謝しつつ、思考する力を身に付けて現場に還元していきたいです。

成績優秀者
表彰第9回
心臓血管
ウェットラボ

テーマ 心臓の解剖と心臓血管治療

2023年 11月26日(日)
9:00~16:00

会場/近森病院 管理棟3階 大会議室

申込期間/8月下旬 申込み開始予定

※申込みについては、後日お知らせ致します。



画像診断部
ユニフォーム変更
今年の4月から変わりました。

学会受賞

日本心臓リハビリテーション学会 第6回 四国支部地方会 **特別賞 受賞**

演題

急性心筋梗塞でフレイルとなった患者の療養管理を
外来心臓リハビリに繋いだ経験



▲ 副賞のクリスタルの盾、
青い布を敷いて撮影。

初めての学会受賞

近森病院 北館3階病棟 看護師 主任
井上 有紗 いのうえ ありさ

3月に開催された日本心臓リハビリテーション学会 第6回 四国支部地方会において、特別賞を受賞しました。
安静によるサルコペニアに加えて食事摂取量が低下したフレイルに対し、退院後の療養管理サポートに取り組んでおり、今後も日々勉強しながら継続していきたいと思っています。今回の受賞に際して、お忙しい中ご指導いただきました先生方に感謝申し上げます。

※心不全療養指導士(P.6)としての活動から学会発表になりました。

2023年度 看護師特定行為研修 開講式

2023年5月27日



医師の働き方改革を見据えて

近森病院 看護師特定行為研修指導責任者 山脇 久男
看護師長 やまわき ひさお

2023年度特定行為研修が6月1日より開講しました。本年度はコロナウイルス感染症5類移行に伴い、4年ぶりに来賓者を招いての開講式となりました。

医師の働き方改革による時間外労働上限規則が2024年より施行される影響から、ますます医師のタスクシフティングが求められています。また、地域包括ケアシステムの推進が求められており、特定行為研修修了者の活動は年々注目が集まっています。

本年度は14名の受講生を迎えて、6月1日より共通科目の講義・演習を行い、10月からは区分別科目、11月より実習が開始となります。

6月から3月までと長期間の研修となりますので、関係各部署の皆様のご協力・ご指導をいただきながら本研修を進めてまいりたいと思います。



今年度開講コース

コース名	受講者数
栄養コース	1名
栄養+選択コース	1名
創傷コース	4名
麻酔コース	2名
外科系基本コース	2名
集中コース	2名
救急コース	2名



資格取得

心不全療養指導士

心不全サポートは
近森心不全チームに！

臨床栄養部 管理栄養士 黒川 萌音 くろかわ もね



心不全療養指導士は2021年より日本循環器学会にて、心不全患者さんの療養をサポートするための資格として設けられています。

当院では年々、心不全療養指導士を取得する職種も増え、今年度は新たに看護師1名、管理栄養士2名、理学療法士2名が仲間に加わり総勢16名が在籍しています。

近年、高齢心不全患者さんは増加し、低栄養は予後規定因子とも言われております。管理栄養士は再発予防だけでなく低栄養予防にも視野を向け、患者さんに応じた栄養管理のギアチェンジを行い、心不全治療をサポートしていきます。今後も、多職種連携が強みの近森病院を盛り上げていけるように精進して参ります。

取得者
総勢16名に！



筆者：前から2列目、
向かって右

施設認定

救急の近森、
栄養の近森の
さらなる発展へ

腹部救急認定医・教育医制度認定施設

2023年1月に日本腹部救急医学会認定医・教育医制度認定施設に認定されました。

認定施設になるためには、組織的、系統的に腹部救急疾患の診療を行っている必要があります。

「救急の近森」として認知されている当院ですが、腹部救急領域の疾患を救急科、心臓血管外科、泌尿器科、放射線科、消化器内科、消化器外科など多診療科にわたって診療を行っております。これからも最新の腹部救急分野の治療の提供と若手医師の育成に精進してまいります。



栄養サポートチーム専門療法士認定規程 認定教育施設

2023年4月に日本臨床栄養代謝学会認定教育施設に再認定されました。

当院では当たり前になっている病棟常駐型栄養管理は、2006年から始まりました。その頃より病棟常駐型栄養管理は、良いアウトカムを出せると当院から学会や講演会等を通じて発信してまいりました。最近やっと診療報酬での加算が付き始め、病棟常駐型栄養管理に注目が集まっています。

以前より、管理栄養士の当院での研修希望は多くありますが、認定教育施設であると、当院で40時間研修した者はNST専門療法士の受験資格が得られます。その他、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、放射線技師、歯科衛生士もNST専門療法士の資格取得ができますので、興味がある方は声をかけていただければと思います。これから「栄養の近森」のさらなる発展に努力してまいります。



近森病院 消化器外科
主任部長
塚田 暁 つかだ あきら



ALL CHIKAMORI

5/3 (水・祝)
開催!



近森就職セミナー 2023

初の全職種合同開催で107名が参加

看護部 統括看護部長 岡本 充子 おかもと じゅんこ

5月3日、107名もの方に参加申し込みをいただき、初の全職種合同での近森就職セミナーを開催しました。

今回は、午前・午後の部に分かれて、スタンプラリー方式で各職種のブースで話を聞く時間と病院見学の時間を設け、近森会の魅力を伝えようと各職種が集まり準備を進めてきました。当日はお天気もよく、ヘリポートからの景色も最高で、参加した方からも「楽しかった」、「近森会のたくさんの魅力を感じた」など好評価をいただき、一番の売りのチーム医療を体感してもらうことができました。

何より運営にあたった私たちスタッフも久しぶりのイベントに楽しい時間を過ごせました。参加していただいた皆さん、どうもありがとうございました。残念ながら参加できなかった皆さん、次回開催をお楽しみに～。

ここで働きたいと思える組織づくり

臨床栄養部 部長 宮島 功 みやじま いさお

「栄養サポートといえば近森病院」と全国の管理栄養士や管理栄養士を目指す学生に認知していただいています。

当院のNSTは2003年より開始し、20年間に渡りNSTや管理栄養士の活動内容を院外に発信してきました。また、これまで多い年には、年間160名の見学、研修者を受け入れています。常に院外への発信に力を入れ、他院の管理栄養士の方、NSTメンバーの方との情報共有を積極的に行なっています。

これまでの積み重ねにより、多くの方に知っていただける組織に成長したと思います。これからも、多くの管理栄養士の方に「近森病院で働きたい」と思ってもらえる魅力ある組織づくりを継続していきたいです。

病院見学

近森病院の各部署を見学。(希望者には、近森リハビリテーション病院、近森オルソリハビリテーション病院も)



ICU



ドクターカー



ヘリポート



近森リハビリテーション病院



近森オルソ
リハビリテーション病院

ブース面談でスタンプラリー

自分のなりたい職種にプラスして、別職種2つのブースもスタンプラリーとして回る試み。

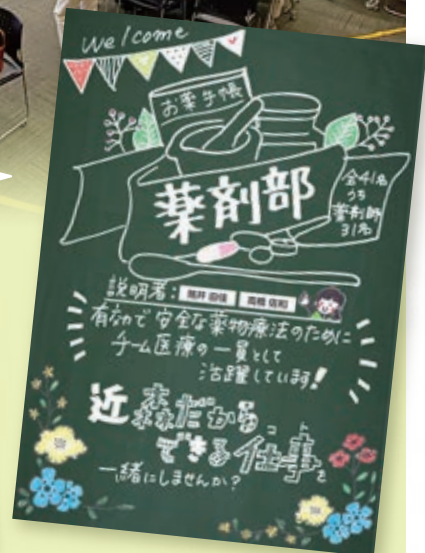
例えば、看護師を目指す方には、看護部のブースで話した後、別のブースで他職種から見た看護師の姿を聞いてもらい、実際に近森で働く看護師をイメージしてもらえよう工夫。病院挙げての就職セミナーならではの試みで、生き生き働くスタッフの姿を感じて頂けたのではないのでしょうか？



面談会場では、ブースの他に展示もあり。ここでは看護師のユニフォーム人気投票エリア。結果を次のユニフォームの参考にさせていただきます！ご協力ありがとうございました♡



▲ ブースを回る毎に、川井院長の笑顔が増していきます。



▲ 各ブース、自分たちの強みや思いを込めた看板を飾って、参加者にアピール！

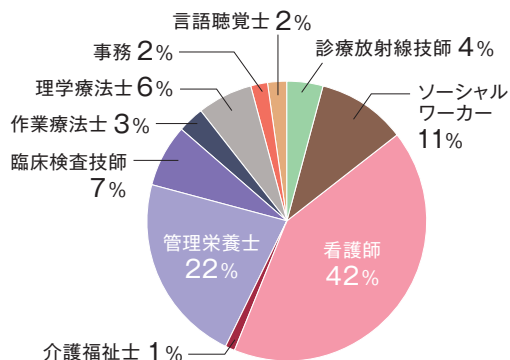
アンケート結果

セミナー満足度は99%!

※5点満点中、5点(非常に満足)が92%、4点が7%、3点が1%

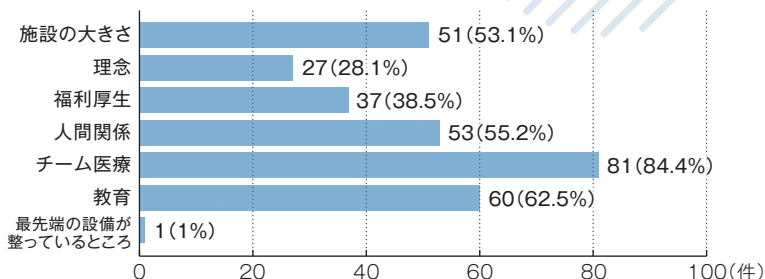
Q.

ご希望の職種は？
(回答:96件)



Q.

参加してみて、近森会グループのどんなところに魅力を感じましたか？(複数選択可)〈回答:96件〉



お疲れ様でした！休憩室でほっと一息。
近森グッズをお土産に。



付せん



ミラー



ボールペン

近森会グループ 採用のご案内

詳しくはQRコードから各職種採用ページをご覧ください。

● 看護部

応募／

2024年度新卒

..... 7/24~8/4

今年度中途 随時



● 臨床検査部

応募／

2024年度新卒

..... 随時

今年度中途 随時



一緒に働こう！





ウェーブ 2023年5月21日 5周年祭 開催

しごと・生活サポートセンター ウェーブ
センター長 沼 慶子 ぬま けいこ



2018年5月21日に現在の北本町に移転、そして、しごと・生活サポートセンターウェーブに改名してから5年が経ちました。本当にあっという間の5年間。その5年を祝って5月21日(日)に「5周年祭」を開催しました。

近森理事長をはじめ和田院長、看護部の方々や日ごろ作業を委託して頂いている事業所の方々からも「おめでとう、そしていつもありがとう」のメッセージ動画を頂き、元気と勇気を頂きました。昼食は祝い弁当、午後からは職員が考えたゲーム、フィナーレのくす玉が綺麗に割れないハプニングもありましたが、とても楽しい時間を過ごすことができました。

これからも皆様と地域に愛され続けるウェーブであるよう頑張っていきます。動画にご協力頂きました皆様、心より感謝申し上げます。



書籍紹介



定 価/2,200円(税込)
出版社/NextPublishing
Authors Press
2023.5.24発売 210ページ

*Amazonより
ご購入
いただけます



高知大学名誉教授 森惟明先生 近刊書

『89歳医師が教える! 健康を守る食と薬の基礎知識』

高知大学 名誉教授
森 惟明先生/著
もり これあき



本書では、栄養学や薬理学の基礎から、生理活性物質や注目のスーパーフード・サプリメント・薬情報まで、幅広いテーマについて詳しく解説しています。

高齢医師の著者が実際に摂っている食事や薬の情報も掲載しており、今すぐ実践できるアドバイスもたっぷりと収録しています。また、注目の野菜やフルーツ、飲み物も紹介しており、健やかな生活を手に入れるためのヒントが満載です。

一般書店ではお求めいただけず、Amazonでのみ販売されます。是非ご覧いただければ幸いです。

皆様が健康な日常生活を送られるための支援ができることを願っています。

【筆者略歴】1934年大阪府生まれ。京都大学を卒業後、国内外の病院で従事し、1981年高知医科大学(現高知大学医学部)脳神経外科の初代教授を務める。厚生省研究班班長、高知県医師会理事、国際小児神経外科学会倫理委員会委員長などを経て、現在は高知大学名誉教授。著書多数。

熱烈応援 昇格人事

経験を生かして

診療支援部 医事課 課長補佐
佐伯 佳奈子

さえき かなこ

近森病院に入職して22年になり、この度、課長補佐を拝命いたしました。

入職した頃は、数十名だった医事課も100名近い大所帯となり業務内容也多岐に渡ってきました。今まで担当してきた受付・カルテ室・文書係・入院係・施設基準係での経験を生かし、竹崎課長をサポートして医事課スタッフが活躍できるように努めていきたいと思います。



チームワークを大切に

診療支援部 医事課
課長補佐

谷口 哲子

たにぐち のりこ

勤務年数は、27年目になりました。

目まぐるしく変化する環境について行く毎日は大変ですが、いつも新しい発見がありますし、チームで協力し合える近森だからこそ続けて来られたのかもしれない。

これからもスタッフと共に助け合い、チームワークを大切に、今まで大所帯の医事課をひとりで引っ張って頂いた課長の補佐ができるように、精一杯努めてまいります。



近森会グループで元気に働く仲間を紹介します

ハッスル研修医

研修医になって

初期研修医 1年目

(高知大学・近森病院たすきがけプログラム)

松本 一真

まつもと かずま

研修医となって、はや1カ月が経ちました。夜勤や休日勤務も始まり、毎日がとても忙しくて、大変です。けれどそれと同じくらいに毎日が勉強になることばかりで、とても充実しているように感じます。私は現在救急科を回っており、1カ月経った今でも分からないことやできないことばかりで一人で反省して落ち込んでしまいます。それでも、4月のころと比べたら少しできることも増えて、たまに周りの方たちに「ありがとう」や「助かったよ」などと言われると本当にやって良かったなと思います。そして、少しずつですが成長しているように感じます。

救急科は大変だけど、和やかな雰囲気です。緊張しやすい私には質問しやすい環境で助かっています。分からないことがあったら、どんなに忙しくても嫌な顔せずに丁寧に教えてくださりとても勉強になっています。

これから先も色々な科を回りますが、積極的に質問して吸収し、人間的にも医師的にも成長していけるように頑張りたいです。



第23回

公開県民講座

コロナの間に進んだ医療

7/23日 14:00
開場 13:30

かるぽーと 大ホール

参加無料 申込不要

詳細は
こちら



プログラム

※16:30頃終了の予定です

開会のご挨拶

- ① 再生医療でキズを治す！ PRP療法
- ② ここまでできる、肺癌の早期診断
- ③ 先生と話しながらかうす！ 腰の内視鏡手術！！
- ④ 令和版 ナースのお仕事
看護師ができるようになった医師の仕事

新米院長から

- ⑤ 心房細動のカテーテル治療
- ⑥ 心臓治療でできる脳梗塞予防
- ⑦ 脳血栓を取る！ カテーテル治療
- ⑧ 僧帽弁のカテーテル治療
- ⑨ 大動脈弁のカテーテル治療
バージョンアップ！

閉会のご挨拶

入江 博之(近森会副理事長)

杉田 直哉(形成外科部長)

大川 良洋(消化器内科部長)

井ノ口 崇(整形外科部長)

山中 京子(ICU病棟看護師長)

川井 和哉(近森病院院長)

三戸 森児(不整脈センター センター長)

細田 勇人(循環器内科部長)

西本 陽央(脳神経外科部長)

菅根 裕紀(循環器内科部長)

田井 龍太(心臓血管外科部長)

近森 正幸(近森会理事長)



リレーエッセイ

我が家の食卓

診療支援部 施設用度課
小谷 竜也 おだに たつや



私の家族は、妻、長女(12)、次女(6)、長男(2)の5人構成ですが、食事に関する好き嫌いがとにかく多いです。代表的な食材を挙げると、ネギ(妻以外全員)、貝(私以外全員)、納豆(妻・長女)などなど。

そんな家族ですが、普段の食卓は妻が工夫を凝らし、なんとか成立させてくれています。そんな妻には感謝しかありません。みそしるに汁が入っていないからうが、地獄のように沸騰しているようが、ただただ感謝です。

週末になると、夕食に嫌いなものを食べたくない子供たちをそそのかし、一緒に料理をすることがあります。食べたいものを決め、食材や調味料の確認、足りないものの買い出しを行います。実際には一人でやる方が効率的でおいしかったりするのですが、子供たちができることを考え、役割を遂行し、完成へ向かっていく様子はみていて嬉しくなります。自分で作った料理を食べている子供たちの表情は、なにものにも代えがたい私の宝物となっています。



私の趣味

家庭菜園

近森病院 外来センター 看護師
奥土 明海 おくだ みか



私は、3月に進学のため高知県に引っ越してきました。出身は淡路島です。

初めての高知県で慣れないことだらけですが、毎日日中は仕事、夜間は大学で勉強に励んでいます。

看護師4年目で初めての外来での仕事は、部署のみなさんが優しく教えてくださり、少しずつ慣れ始めてきました。また、大学では英語や日本文学、コミュニケーションなどについて学んでいます。クラスメイトは年下の人が多いですが、一緒に楽しく授業を受けたり、課題をしたりしています。

少し生活が慌ただしいですが、4月から家庭菜園を始めました。トマトやきゅうり、レタスなどベランダで育てています。葉が大きくなったり、花が咲いたり、少しずつ育ってきてます。最近やっと実が実りました。早く収穫して食べるのが楽しみです。



まるまる
FREE 私の○○

○○にフリーワードを入れて
語っていただきました

私の「日課」

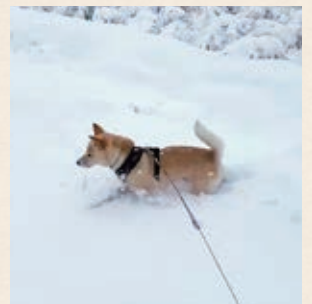
近森リハビリテーション病院
4階病棟 看護師 主任
岡林 巧也 おかばやし たくや



私の日課は、花の世話と愛犬の散歩です。私の一日は、朝起きて犬の散歩へ行き、家に着いたら庭の花へ水やりをすることから始まります。

愛犬は豆柴です。朝の散歩は体をしっかりと起こしてくれるので気持ちがいいです。雨の日も晴れの日も散歩に行っていますが、去年のような大雪は初めてでした。初めての積もった雪に愛犬も興奮しており、こっちは歩きにくいのに走りまわったり、自分で蹴った雪を追いかけてたりと大はしゃぎでした。

花の世話では、過去に季節の花でガーデニングを家族でしていることを紹介したことがあり



ます。花への水やりはもちろんですが、風通しを考えながら剪定したり、咲き終わった花を摘んだり、やっていると夢中になります。仕事の日には剪定まではできませんが、休みの日には植えている花の全部を整えます。花が綺麗に咲いた時の達成感もありますし、いかに綺麗に保てるかも楽しみながらやっています。



近森病院附属看護学校 事務局 主任 谷 仁美 たに ひとみ

各学年から1名～2名を選出し、在校生に本音で語ってもらいました。学生は撮影数か月前から集まり、どんなテーマの座談会にすれば受験生の興味をそそのかすのかを、自分たちで考え当日を迎えました。撮影当日は、たくさんのカメラを前に緊張しながらも、自分たちで考えてきたからこそ、本音や本気が伝わる座談会になりました。



近森病院附属看護学校

OPEN CAMPUS

オープンキャンパス

※感染予防の観点から事前申し込みをお願い致します。

<https://www.chikamori-hns.com/>

開催時刻や当日の体験メニューは
ホームページをご覧ください。

近森看護



088-871-7582 ※受付9:00～17:00
平日のみ

歳時記

おらんく家様より
うなぎ弁当 (5月12日)

おらんく家様より
ぎ弁当 (5月12日)

土佐 鮎妃おらんく家様より、新型コロナウイルス5類移行を

機にこの3年間の慰労を込めて、うなぎ弁当500食を頂きました。昨年、一昨年に続けての差し入れに、感謝もひとしお。美味しかったです、ありがとうございました!!

近森病院でお勤めの皆さまへ

新築のマンションは、完成したばかりで、まだ、あまり、住居として、利用されていない。ようやく、建物の外観が、見えて、周囲の環境でも、概略で、見られる。高層ビルや、地下鉄の駅、の、様子、が、よく、見えて、賑わい、を取り、戻している、ように、思える。

その結果、3月4日から4月10日の分間は、既に執行された分のことで片済みではございませんが、今まで長く厳しい環境の中で、貴国国民の生活環境を支えていた方、誠にあがなうございました。

以上が、私の経験、教員の現場でも多くの問題が湧いてきますが、
 ようやく、私たち おらんく星 も「これから」に向けて動き始めてお
 ります。

これからは私も、道を違えて多くの人の心の支えになり、
ご褒美にたいへん御機嫌に感謝し、『毎日感謝する
私の生活』を伝えられるお話を聞いて一生懸命頑張ります。

「今日は遅れたな」「最近うまくいかない」「今日は帰ったから
遅刻しなものが食べたいな」と思ったときは、是非おらんく屋へお越
しくてください！

お礼状でお礼の言葉を拝読し、誠にありがとうございます。お礼状も拝読しております。これから安心してご利用いただける場所として、お礼状も拝読させていただきます。

株式会社マーク
主幹 藤田 芳子 代表取締役

陳式太極拳

編集室通信

2024年7月26日にパリで夏季オリンピックの開会式が行われます。東京オリンピックの開催がコロナの影響で1年遅れ2021年だったため、あつという間に次のオリンピックが開催される感覚です。各国の文化を最新技術を駆使して表現する華やかな開会式が毎回の一番の楽しみです。100年ぶりのパリでの開催にいまから注目です。 ニワトリ

診療数

令和5年5月

——電子カルテ管理課——

●近森会グループ

外来患者数	16,631人
新入院患者数	1,058人
退院患者数	1,024人

●近森病院(急性期)

平均在院日数	11.82日
地域医療支援病院 紹介率	99.64%
地域医療支援病院 逆紹介率	313.05%
救急車搬入件数	594件
うち入院件数	353件
手術件数	595件
うち手術室実施	363件
うち全身麻酔件数	248件

今月のちかもり食 — エームサービス株式会社

こどもの目



昼食に「えんどう豆ごはん、ブリの山椒焼き、若竹汁、きゅうりの酢の物、水ようかん」を提供しました。

春先の5月が旬のえんどう豆やタケノコ、わかめを使用した献立になっています。きゅうりの酢の物はみょうがを入れたことで良いアクセントに!

少しずつ暑くなってきましたので、水分補給をして熱中症には注意しましょう。

5月5日(金)

戎 正司

Masashi Ebisu

総合心療センター長

聞き手／ひろっぱ編集部



心と心の
相互交流から
精神疾患に
向き合って

もともと、人間の心や精神、他人の心だけでなく、自分の心にも興味があり、医学部入学前から精神科医を目指した。30年ほど前に近森病院に勤務後、高知大学、芸西病院を経て、コロナ禍の2020年に総合心療センター長に就任される。

わからないことを、わからないままに

今回は、診療に差支えがあるためプライベートは除き職務に関することだけを取り上げる。ただし、その内容も奥が深く聞き手の力不足もあり着地点のないままキーボードへ向かう。

「そもそも、人が人の心を理解するためには断片的なデータではわからない。わからないものをわからないままに受け止めていく」という戎先生の言葉に委ねたいと思ったからだ。

「人間の心を理解することは時間のかかる作業で、全人生を費やしても足りない」という。「若い頃は単純な図式を覚えさえすれば応用できると思っていた節もありますが、経験を重ねるにつれ複雑になってきました。複雑なものを、複雑なままに受け止める方が良いことがある」としつつも「まだまだかな」と呟きを加えた。

専門は力動精神医学。患者さんの心と治療者の心の相互交流＝対話による治療法である。「アメリカでは力動精神医学、ヨーロッパでは精神分析的精神医学と言いますね。う～ん、『力動』のほうが『分析的』より範囲が広いというか、難しいですね。こんな風

に私は細かな言葉にこだわるわけですよ」。

先生はどんな時も言葉を粗野に扱わない。常に脳内で、よりよい言葉を選択しているように受け止めた。

人の心を理解する訓練

「これ、ルポに書きたいでしょう?」と承認されたエピソードがある。

その出会いは戎先生が40才の頃。「ある分析のセミナーにけっこう顔を出し、一番前で聴講していたので、その時の講師が別の学会で『よく見かけるね』と声をかけてくださったのです。精神科医であり日本の精神分析の第一人者の先生だったので『チャンスだ』と思いましたね」。それが縁で、先生の研究会(県外)に参加するようになった。

「その先生の指導を受け、患者さんをどう理解するかについて徹底的に学びました。ハッと気づかされることの連続で、自分の無意識を知ることを含め、盲点を理解するなどを訓練したイメージでしょうか」。この研究会は毎週行われ、7年ぐらいつつた(しかも自費ですよ、と和ませる)というからその情熱は恐れ入る。

近森の精神科チーム医療と「人・場所・時間」

精神科治療には「人・場所・時間」が基本だと言う。

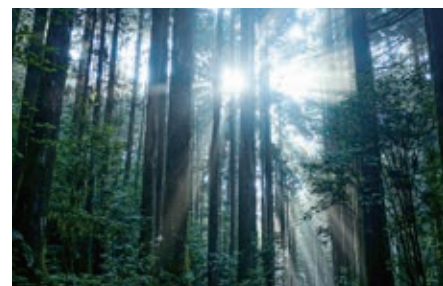
「人」とは治療者のことで、医師、看護師やコメディカルの高い能力が求められる。心と心の相互交流によって、患者さんの個性(人生の物語)を共有することが大切なのだ。「そういう面では近森の精神科という

『場所』は、患者さんを主体とした多職種の相互的なコミュニケーションが風土として根付いています」と信頼を寄せる。

「時間」においては、下記のエピソードを伝えたい。

今後の目標を問うと、「若い人に対して、すぐに結果が出ないことをおもしろいと感じてほしい」と投げかけられた。それに対し、編集部の1人が「わからないことは、すぐに調べないと気が済まないかも」と答える。

「あなたたちは、漁師気質(その日の成果を求める)なのかな? 私は林業気質(植林から伐採までは約50年、木の1齢は5年。そもそも単位が違う)。すぐに結果が出なくても焦らない気の長さがあるのだと思う。でも、あなたのような人材は、この病院にはおおいに必要なのですよ。私みたいなのがたくさんいたら、それこそ大変だ」と笑った。



わからなければ、AIが教えてくれる時代。私たちは難しいことを簡単に理解し、解決したつもりになる。はたしてそれが正しいかどうか。何事も過多になるとパソコンのようにフリーズしてしまうだろう。そんなときにエスケープして再起動をサポートしてくれる場所は必要なのだった。

